

新年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。1年が短く感じるようになってきていますが、毎年新年を迎える度に気持ちが新しくなるように思います。職員の皆さんも気持ちも新たに大きな期待を持って新しい年を迎えられたことと思います。毎年12月になると「今年の漢字」が発表されますので、いつもどの漢字が選ばれるのか楽しみにしております。「今年の漢字」は、漢字一字を選びその年の世相を表す字であるとして決定、公表する日本漢字能力協会のキャンペーンで1995年に開始し、毎年12月12日の「漢字の日」に発表されるようです。さて、昨年の「今年の漢字」は「輪」で、2020年東京五輪の開催決定や、富士山の世界文化遺産の登録、サッカーW杯への日本代表の出場決定など「日本中が輪になって歓喜にわいた年」であり、台風など相次ぐ自然災害にも支援の輪が広がったことなどが理由に挙げられたようです。また、「輪」には、大勢の人が手を握り合い円滑に回転していくという意味があるとのこと。病院におけるチーム医療はまさに「輪」で表わされるもので、それぞれの部署の職員が横断的に力を合わせ大きな「輪」を作ることによって病院の大きな目標である「地域に信頼される病院」を達成できるものと思います。今年目標は職員で「輪」を作り、高知病院の役割である高度医療の推進、臨床研究、教育、情報発信をさらに発展させていきたいと思っています。今年度から来年度にかけて、多くの医療機器を導入することを決定しました。このことにより、新しい診療技術が取り入れられ、より質の高い医療が実践されることを期待しています。臨床研究の推進は国立病院機構の大きな目標で、高知病院においても優れた研究業績をあげることが必須のこととなっています。臨床研究部長の篠原勉先生が中心となり機構のネットワーク研究やEBM研究に参加していますが、昨年は機構の肺癌の臨床研究において、最も多くの症例を登録し呼吸器科医長の岡野先生が米国の癌学会（ASCO）で口演発表の機会を得ました。ASCOで口演発表することは極めて難しく、昨年は我が国からは岡野先生のみであり全国的に高知病院の知名度があがりました。今年も多く業績が病院から発表されることを期待しています。教育に関しては、医師の初期・後期研修や看護師のスキルアップ教育などを充実させることが重要です。管理型病院として初期研修医を受け入れることは高知県の医療にも貢献することですが、それには良質な研修を提供できる病院であることが重要です。ここ数年、高知大学や徳島大学から多くの学生が臨床実習で高知病院にきてくれるようになり、教育体制が評価されたのか今年の研修医のマッチングはフルマッチでした。情報発信については、病院すべての部署の職員が新しい知見や考え方を医療関係者や市民の皆さんに積極的に提供していきだきたいと思っています。今年の箱根駅伝は東洋大学がすばらしい成績で総合優勝をしましたが、スローガンが「その1秒を削り出せ」だったようです。一人一人が少しずつ時間を短縮することで、大きな時間差が生まれたことが優勝に繋がったといえます。病院も個人、個人が少しずつでも医療の質を上げていくことが結果的に大きな力になると思います。職員全てで作った大きな「輪」で目標達成に向かって努力し、素晴らしい高知病院を作っていきます。